

【練習 1（前回の復習 1） レベル易】

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
1.	p rimary	第一の	①	f irst	最初の
2.	t riangle	三角形	②	th ree	(数詞)3
3.	uni c orn	一角獣	③	h orn	角
4.	d ental	歯の	④	t ooth	歯
5.	g entle	優しい	⑤	k ind	親切的な
6.	f lower	花	⑥	b loom	開花(する)
7.	in f act	実際	⑦	i ndeed	実際
8.	h ost	主人	⑧	g uest	客

前回の記事で出てきた単語のうち、語彙レベルが比較的低い単語です。

直感的に同語源であることが意識できるペアなので、「グリムの法則」のを覚える際にセットで頭に浮かぶようになっておくと役立ちます。

【練習 2 前回の復習 2 レベルやや難】

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
9.	tenuous	(関係が)希薄な	②	thin	薄い
10.	conflagration	大火	⑥	blaze	炎
11.	exhort	促す、強く求める	⑧	greedy	貪欲な
12.	deport	強制送還する	①	ferry	フェリー
13.	decimal	小数の	④	ten	(数詞)10
14.	obfuscate	ぼやけさせる	⑦	dust	ほこり
15.	glacier	氷河	⑤	cold	冷たい
16.	cone	円錐	③	hone	研ぐ、とがらせる

前回の記事で出てきた単語のうち、どちらかに高難度の単語を含みます。

Y 列のゲルマン語系の単語が基本語であることが多いですが、そうでない場合は、X 列の単語から Y の意味を想像することもできます。

10.の blaze という単語を知らない場合は、対応する flame という単語とつなげて意味を考えたりするのです。

【練習③ レベル易】

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
17.	p entagon	五角形	①	f ive	(数詞)5
18.	t ransport	輸送する	②	th rough	を通して
19.	cent ury	100 年	③	h undred	(数詞)100
20.	d ouble	二重の	④	tw ofold	二倍の
21.	g rain	穀物	⑤	c orn	トウモロコシ
22.	f ragile	壊れやすい	⑥	b reak	壊れる

17. **pentagon** と **five** は普通に見たり聞いたりすると何の関係もないように見えますが、グリムの法則①《p-f 関係》で同族語だとわかります。少しマニアックな知識ですが、「5」はギリシャ語で *pente* で、ゲルマン語のドイツ語でも *fünf* と <n> が現れますが、英語では見られません。英語ではしばし、他言語に見られる <n> が消失します。他のゲルマン語にはない、英語ならではの特征とされます。

18. ラテン語の接頭辞 **trans-** は「超えて、向こう側へ」を意味します。英語の **through** と対応するのがわかります。

19. **cent**-「100」は英語の **hundred** に対応します。<c> の発音は現代語では /s/ ですが、ラテン語では常に /k/ でした。文字からゲルマン語の <h> とのつながりを感じることです。**centimeter**「100 分の 1 メートル」、**cent**「100 分の 1 ドル」、**centipede**「ムカデ」<centi 100 pede [=foot:法則①] など仲間です。

20. ラテン語の「2」は **duo** です。**duet**「デュエット」、**doubt**「疑う<2 つのものとどちらか考える」なども同族語です。

21. **corn** はアメリカ英語では「トウモロコシ」を指しますが、イギリスでは「穀物」全般を意味することもあります。ロマンス語系の **grain** と意味も重なり合うわけです。<r> はグリムの法則と関係ありませんが、ここで *gra - cor* に見られるように、「r と母音はよく入れ替わる」と覚えておいてください。見た目が異なる単語の関連性を見いだすときに役立つことがあります。

22. **fragile** と **break** は語頭の文字は法則⑥《f-b 関係》で対応し、語幹末の文字は法則⑤《g-k 関係》で対応しています。**fragile** の仲間は、**fracture**「骨折」、**fragment**「断片」、**infraction**「違反」、**frail**「虚弱な」など、重要なものが多くあります。

【練習 4 レベル中】

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
23.	torrid	灼熱の	②	thirst	(喉の)乾き
24.	forest	森(<戸の外)	⑦	door	ドア
25.	plane	水平面	①	field	平地
26.	graph	グラフ、図表	⑤	carve	彫る、刻む
27.	domicile	居住地、住居	④	timber	木材(家の材料)
28.	fissure	裂け目	⑥	bite	噛む
29.	canine	イヌ科の、犬歯	③	hound	猟犬
30.	exhibit	展示する	⑧	give	与える

23. **torrid**「灼熱の」は比喩的に「(恋愛感情などが)熱烈な」の意味にもなります。古英語由来の **thirst** も「喉の乾き」以外に、「(for に対する)渴望、強い欲望」という比喩的な意味があります。

24. **forest** と **door** は同族語で、**forest** は中世の感覚では「戸の外」という場所でした。城壁で囲った外は狩猟に出かける場所だったと考えられます。同じく、**foreign** も「今いる場所の外のこと」ということで、**door** と同族語なのです。

25. **plane**「数学などの水平面」で、水平に翼を広げる様子から「飛行機」の意味が生まれました。**plain**「明白な、わかりやすい」、**palm**「手のひら」もこれらの仲間です。

26. 多くの古語で「書く」は「刻む」といった単語から生まれています。ギリシャ語系で **graph**, **gram** は「書く」の意味を持っていて、ゲルマン語系の **carve**「彫る」と対応するのです。古代に紙とペンはないので、字を書くという行為は、木や粘土板に文字を刻みつけることであったからです。余談ですが、**write** もドイツ語の **reißen**「引き裂く」と同族語で、刻みつけるイメージから来ています。

27. ラテン語で **domus** は「家」です。**dominus** は「家の主」ということで、「主人」となり、キリスト教では「神」の意味も獲得しました。**dominant**「支配的な」、**dominate**「支配する」、**domain**「領域<支配が及ぶ地域」などです。**dome**「ドーム」もギリシャ語の「家」から来ています。ゲルマン語系の **timber** とは「家の材料」ということでかすかにつながります。

28. **fissure**「裂け目」は、歯形が入ったようなイメージで **bite** と結びつけます。**fission**「分裂」(⇔**fusion**「融合」)もこの仲間です。「少し」の意味の **bit** も「一噛み(一口)」ということで、**bite** の仲間です。**bait**「餌」も同族語です。

29. 古英語では、「犬」はもっぱら **hound** の古形を使っていましたが、語源不詳の **dog** に取って代われ、現在の **hound** は「猟犬」と意味を縮めています。ドイツ語では「犬」は今でも **Hund** といい、ドイツ語由来の **Dachshund** 「ダックスフント」に現れます。これらがグリムの法則によりラテン語の **canine**「犬の、犬歯」とつながります。

30. ラテン語では **habere**「持つ」という動詞がありますが、グリムの法則から、これは英語の **have** ではなく、**give** と同族語だとわかります。ロマンス語系で **habit**, **able** などを持つ単語は、この **habere** に関連するものがほとんどです。**exhibit**「展示する」は、「外に持つ」ぐらいの発想で考えます。

【練習 5 レベル難】

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
31.	horticulture	園芸(学)	⑧	garden	庭
32.	glue	接着剤	⑤	clay	粘土
33.	fossil	化石	⑥	embed	埋め込む
34.	crematory	火葬場	③	hearth	暖炉の前
35.	intrude	侵入する	②	thrust	強く押す
36.	deduction	推論・演繹	④	tie	結びつける
37.	replenish	補充する	①	refill	再び満たす
38.	fix	固定する	⑦	dike	堤防、土手

31. ラテン語で hort- は「庭」です。culture は「耕すもの」といった原義があります。horticulture「園芸学」は学問的な文脈で使われるフォーマルな語です。ロマンス語系だと、cohort「一味；共犯者」も同族語です。同じ庭にいる同志といったところでしょうか。法則⑧では英語内で <g>-<y> の対応があるので、garden と yard はどちらも本来は同じ単語でした。後の時代の音韻変化でグリムの法則が見えなくなりましたが、orchard「果樹園」(<古英語 ortgearld)も仲間です。

32. glue「接着剤」はロマンス語系で、対応するゲルマン語は clay「粘土」です。どちらも粘性のある物質で、ものの固着に使われます。ゲルマン語系の clay の方が加工されていない素朴な響きを残している点もポイントです。

33. fossil「化石」は土に埋まっているものということで、embed「埋め込む」と対応します。どちらも印欧語幹 *b^hed^h-「掘る」に由来します。「掘る」動作は、「溝」や死者を横たえる「寝台」へとつながります。fosse「城の堀；溝」なども同族語です。

34. cremate「(遺体を)火葬する」、crematory「火葬場」、carbon「炭」、ceramic「陶磁器の、窯業の」はすべて「焼く」というイメージを持つ同族語です。対応するゲルマン語系の hearth「炉床、暖炉の前」は比喩的に「家庭(生活)」の意味で使われることもあります。

35. intrude「侵入する」は、-trude に threat「脅威」や thrust「ぐいと押す、突き刺す」のつながりを感じることができます。何かが押し入ってくる感じが共有されています。ロマンス語系の関連語は protrude「突き出る」、obtrusive「押しつけがましい、出しゃばる」などで、どちらも thrust の動作がイメージしやすいです。

36. deduction「演繹」とは、個々の事例から抽象的な一般論を導く考え方です(de から duct 導く、引っ張っていく)。具体的な事柄を結びつけて(tie)テーゼを導く方向の考えです。duct, duce といった語幹をもつロマンス語系の単語は無数にあるので、思いつくものをまとめて整理しておくことをおすすめします。ゲルマン語系では、tie は team, tug「引っ張る」、taut「ピンと張った」などです。

37. フランス語系の replenish と英語本来語の refill はどちらも意味も似ていて共通点がイメージしやすいペアです。ロマンス語系 plenty「満たされた量」、ギリシャ語形 plethora「多量」などに fill, full のニュアンスを感じ取りましょう。接頭辞がつく関連語が無数にあるので、まとめて整理しておくことをおすすめします。

38. fix「固定する」は、本来語で dike「堤防、土手<水の範囲を固定するもの>」とつながります。ditch「溝」もゲルマン語系の同族語です。

【練習 6 レベル難】 ※Gk ギリシャ語由来, L ラテン語由来

	X の単語	X の意味	法則	Y の単語	Y の意味
39.	heritage	遺産	⑧	go	行く
40.	paucity	欠乏	①	few	少ない
41.	trauma	トラウマ	②	thresh	激しくたたく
42.	endemic	集団に特有の	④	tide	潮; 時流
43.	acoustic	音響の	③	hear	聞こえる
44.	segregate	隔離する	⑤	cram	詰め込む
45.	enthusiasm(Gk)	熱狂	⑥	fanatic(L)	狂信的な
46.	inferior	より下の	⑥	under	～の下

39. **go** は基本語ですが、「歩み去ったもの、行ってしまったもの」という意味で、h- の文字を持つ **heritage**「遺産」などとつながります。**heir**「相続人」、**hereditary**「遺伝の」なども仲間です。ゲルマ語形では、**gait**「歩き方」なども同族語です。

40. **paucity**「欠乏」、**poor**, **poverty** はすべて同族語で、ゲルマン語の **few** に対応します。また、「少ない、小さい」は「子ども」に意味を広げるので、**puerile**「(非難して)子どもっぽい」、**pusillanimous**「気の弱い<pusil 小さい anima 動物」などともつながります。子どもの「教育」ということで、ギリシャ語形の **pedagogy**「教育学」も同族語です。

41. **thresh**「強く打つ、たたく」のバリエーションで **thrash**「(鞭や棒で)たたく、打つ」があります。「傷」を意味するギリシャ語に由来する **trauma** はこの仲間です。このグループはかなり意味に広がりがある印欧語幹 *terə-「こする、ひねる、回す」に由来します。究極的には **turn** や **throw** も同族語なのですが、風呂敷を広げすぎるとわかりにくくなるので、一部の紹介にとどめておきます。

42. 英語本来語の **tide**「潮の満ち引き」は古英語では「時間」を表す一般的な語で、印欧語の原義は「区切る」でした。「潮流、時間」とは、時を区切るものという発想です。ギリシャ語では、人々の住む区画ということで、**demos**「デーモス」と呼ばれました。そこから **demo-** は「人々の」という語幹として現在は広く見られます。**endemic**「ある集団に特有の」、**democracy**「民主主義」、**demography**「人口統計学」など、やや学術的な響きの単語に多く見られます。

44. ギリシャ語形の **acoustic** と **hear** はわかりやすいつながりです。

45. **enthusiasm** の **thu** の部分はギリシャ語で「神」を意味する単語に由来します。神を信じる熱狂はラテン語系では **fanatic**「熱狂的な」につながります。**fan**「ファン」はこの単語の略語です。

46. 形態素の先頭ではないですが、**under**「下」とラテン語の **inferior**「より下の、劣った」は同じ印欧語幹に由来します。**infra**, **infer** はラテン語で「下の」の意味します(反意語は **super**)。イタリア語由来の **inferno**「地獄」も「下の場所」ということで関連語です。形容詞 **infernal**「地獄のような」もセットで覚えておくと良いでしょう。